

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

平成 27 年 2 月 18 日 午後用

## 第 66 回 獣 医 師 国 家 試 験 実 地 試 験 問 題 (D)

### 注 意 事 項

1. 問題数は、60 問であり、解答時間は 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを 1 つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1 問につき 2 つ以上マークした場合には、そのうちの 1 つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうち E 3 ☑を横線で、  
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ず HB の鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの  
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特  
に注意すること。



**課題1 次の文を読み、問1、問2に答えよ。**

養殖マダイが大量に死亡する事例が発生した。瀕死魚を解剖したところ〔図1-A〕の矢印のような病変がみられ、脾臓スタンプ標本（ギムザ染色）には〔図1-B〕の矢印のような細胞が観察された。

別冊 D  
図 1-A, B

**問1** 最も疑われる疾患の原因ウイルスが属する科はどれか。

1. イリドウイルス科
2. ヘルペスウイルス科
3. ノダウイルス科
4. ラブドウイルス科
5. ビルナウイルス科

**問2** 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. ヤマメにも発生が確認されている。
2. 結合織細胞が巨大化することが特徴的である。
3. 不活化ワクチンが承認されている。
4. 赤血球に封入体が観察される。
5. 重篤な筋肉内出血がみられる。

課題2 次の文を読み、問3、問4に答えよ。

〔図2-A〕は定期繁殖健診で診察したホルスタイン種の雌牛の繁殖記録である。左から牛の個体記号、産歴、診察日における分娩後日数、分娩後の人工授精実施回数、前回の人工授精からの日数を示している。

別冊D  
図2-A, B

問3 これらの牛に関する記述として適切なのはどれか。

- a (ア)の牛は通常分娩後の悪露がまだ排出されている時期である。
- b (イ)の牛は子宮の修復が完了して受胎可能な時期に達している。
- c (ウ)の牛は直腸検査により妊娠診断が可能である。
- d (エ)の牛は妊娠している場合には超音波検査で胎子の心拍が観察される。
- e (オ)の牛はリピートブリーダーと診断可能である。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問4 (カ)の牛について直腸検査を行ったところ、左側卵巣に複数の卵胞が確認された。〔図2-B〕はその時の左側卵巣の超音波検査像である。右側卵巣には明瞭な構造物は認められなかった。7日後の再検査では、左側卵巣のみ初診日と同程度の大きさの卵胞が2つ認められた。最も疑われる疾患はどれか。

- 1. 卵巣萎縮
- 2. 卵巣静止
- 3. 鈍性発情
- 4. 卵胞嚢腫
- 5. 黄体嚢腫

**課題3** 次の文を読み、問5、問6に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、2週齢。3日前から発熱し衰弱してきたとの主訴で診察。臍の腫脹、熱感、疼痛および臍帯断裂部からの膿汁排泄が認められ、翌日死亡した。〔図3〕は剖検時における腹部の肉眼像である。

別冊D

図3

**問5** 〔図3〕に点線で示した構造物はどれか。

1. 動脈管
2. 臍動脈
3. 尿膜管
4. 臍静脈
5. 門脈

**問6** 本疾患の予防処置として最も適切なのはどれか。

- a ワクチンを接種する。
- b 臍を結紮する。
- c 生後6時間以内に初乳を摂取させる。
- d 飼育環境を衛生的に保つ。
- e 抗生物質を全身投与する。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題4 次の文を読み、問7、問8に答えよ。**

犬、チワワ、雄、1歳齢。1ヵ月前から体に触れられることを嫌がり、歩かなくなったとの主訴で来院。〔図4〕は頸部X線側方像である。

別冊D

図4

**問7** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 椎体骨折
2. 椎間板脊椎炎
3. 椎間板疾患（椎間板ヘルニア）
4. 環椎軸椎亜脱臼（環椎軸椎不安定症）
5. 椎体腫瘍

**問8** この症例に対する外科的治療法として最も適切なのはどれか。

1. 背側椎弓切除術
2. 片側椎弓切除術
3. 腹側椎体固定術
4. 腹側スロット術
5. 大後頭孔拡大術

**課題 5** 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。

猫、雑種、避妊雌、13 歳齢。2 ヶ月前から多飲・多尿が認められ、1 週間前から衰弱が著しくなったとの主訴で来院〔図 5 - A〕。皮膚は著しく菲薄化しており、〔図 5 - B〕のような裂傷が多数認められた。

別冊 D 図 5 - A, B
--------------------

**問 9** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 皮膚無力症
2. 慢性腎臓病
3. 毛包虫症
4. 甲状腺機能亢進症
5. 副腎皮質機能亢進症

**問 10** この症例の予想される血液検査所見として最も適当なのはどれか。

1. 高血糖
2. クレアチニンの高値
3. 総チロキシンの高値
4. 高カルシウム血症
5. 低ナトリウム血症

課題 6 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

黒毛和種の育成牛および泌乳牛の計 30 頭を春に人工草地に放牧したところ、10 日目から興奮、疾走、転倒、歩様のふらつきおよび強直性痙攣が多発した。〔図 6〕は発症牛 7 頭の血液検査結果である。

別冊 D

図 6

問11 7 頭全てに共通する血液検査所見として適当なのはどれか。

1. 低カルシウム血症
2. 低マグネシウム血症
3. 低リン血症
4. 低ナトリウム血症
5. 低カリウム血症

問12 本疾患に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 発症牛に対しては速やかな治療が必要である。
2. 窒素含量が高い牧草の摂食が誘因になる。
3. 高齢の泌乳牛は発症しやすい。
4. 放牧に当たっては馴致することが予防となる。
5. マメ科に代えてイネ科の牧草を給餌すると予防になる。



課題7 次の文を読み、問13、問14に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、5歳齢。呼吸器症状を呈して死亡した。〔図7-A〕は肺の病理組織像（HE染色）、〔図7-B〕はその中央部の拡大像である。

別冊D 図7-A, B
----------------

問13 最も疑われる疾患はどれか。

1. アスペルギルス症
2. 牛アクチノバチルス症
3. 結核病
4. 類脂質肺炎
5. ムコール症

問14 本疾患を診断するのに最も有用な染色法はどれか。

1. グラム染色
2. ズダンⅢ染色
3. チール・ネルゼン染色
4. グロコット染色
5. ギムザ染色

**課題 8** 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

〔図 8 - A〕はあるウイルスを実験的に子犬に接種した後の体温と体重の推移である。〔図 8 - B〕は感染後 15 日目に認められた下腹部から内股部の皮膚の外貌である。

別冊 D  
図 8 - A, B

**問15** 接種したウイルスはどれか。

1. 犬パルボウイルス
2. 犬ヘルペスウイルス 1 型
3. 犬パラインフルエンザウイルス
4. 犬ジステンパーウイルス
5. 犬コロナウイルス

**問16** このウイルスと同属のウイルスによる疾患はどれか。

1. 牛疫
2. 馬鼻肺炎
3. コイ乳頭腫症
4. 猫汎白血球減少症
5. 豚伝染性胃腸炎

**課題9 次の文を読み、問17、問18に答えよ。**

犬、ミニチュア・ダックスフンド、雄、3歳齢。2週間前から口唇部に〔図9-A〕に示した結節が認められるとの主訴で来院。〔図9-B〕は結節の細針吸引塗抹像である。

**別冊D**  
**図9-A, B**

**問17** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 皮膚組織球腫
2. 肥満細胞腫
3. 皮膚型リンパ腫
4. 無顆粒性悪性黒色腫
5. 扁平上皮癌

**問18** 飼い主に提示すべき治療方針として適当なのはどれか。

- a 外科的切除
- b 経過観察
- c ロムスチンの投与
- d シクロスポリンの投与
- e 放射線療法

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

4 週齢の時点においてあるウイルスに未感染で移行抗体を有していた犬に、8 週齢でこのウイルスに対する弱毒生ワクチンを接種した。

別冊 D

図 10

問19 4 週齢から 2 日おきにこのウイルスに対する中和抗体価（IgG）を測定した場合、予測される抗体価の推移は〔図 10〕に示す（ア）～（オ）のどれか。

- a (ア)
- b (イ)
- c (ウ)
- d (エ)
- e (オ)

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問20 犬のワクチンおよび免疫に関する記述として適切なのはどれか。

- 1. 6 週齢未満でワクチンを接種する場合は低力価ワクチンが用いられる。
- 2. 移行抗体の大部分は初乳ではなく胎盤を介して移行する。
- 3. 出生直後の IgM 産生能は成犬と比べて著しく低い。
- 4. ワクチン接種により生じる顔面浮腫は主に IV 型アレルギーである。
- 5. 犬用ウイルスワクチンでレトロウイルスの混入が見つかっている。

課題11 次の文を読み、問 21、問 22 に答えよ。

〔図 11〕は貧血の犬から採取した血液を EDTA 処理後、生理食塩水で 2 倍に希釈したものをスライドグラス上に載せた肉眼像である。

別冊 D

図 11

問21 〔図 11〕で赤血球に認められる現象として最も適当なのはどれか。

1. 連銭形成
2. 凝集
3. 凝固
4. 膨化
5. 断片化

問22 最も疑われる疾患はどれか。

1. 甲状腺機能低下症
2. 免疫介在性溶血性貧血
3. レプトスピラ症
4. 鉄欠乏性貧血
5. 鉛中毒

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

犬が発熱および発咳を主訴に来院。胸部 X 線撮影では肺に結節状陰影像が認められた。〔図 12〕は糞便検査により検出された虫卵である。

別冊 D

図 12

問23 最も疑われる寄生虫はどれか。

1. 糸状肺虫 (*Dictyocaulus filaria*)
2. 多包条虫 (*Echinococcus multilocularis*)
3. 横川吸虫 (*Metagonimus yokogawai*)
4. ウェステルマン肺吸虫 (*Paragonimus westermani*)
5. 犬糸状虫 (*Dirofilaria immitis*)

問24 この寄生虫卵を検出する糞便検査法として最も適切なのはどれか。

- a ホルマリン-エーテル法 (MGL 法)
- b AMS Ⅲ法
- c セロハンテープ肛門周囲検査法
- d 浮游法
- e ビーズ法

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題13 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

〔図 13〕はある人獣共通感染症の 2012 年におけるヒトでの世界的発生分布である。

別冊 D 図 13
--------------

問25 本感染症はどれか。

1. チクングニア熱
2. デング熱
3. ウエストナイル熱
4. 日本脳炎
5. ライム病

問26 我が国において本感染症の媒介昆虫を野外で駆除するために使用する殺虫薬として適切なのはどれか。

1. ジクロロジフェニルトリクロロエチン (DDT)
2. ベンゼンヘキサクロライド (BHC)
3. ピレトリン
4. パラチオン
5. ワルファリン

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

犬、ヨークシャーテリア、去勢雄、4歳齢。口臭が強いとの主訴で来院。くしゃみ、疼痛および顔面の浮腫は認められなかった。〔図 14〕は口腔内肉眼像である。

別冊 D

図 14

問27 矢印で示した歯およびその周囲歯肉の肉眼所見として適切なのはどれか。

- a 歯石が付着・蓄積している。
- b 歯肉が後退している。
- c 歯が破折している。
- d う蝕が認められる。
- e エナメル質の形成不全が認められる。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問28 この症例に対する処置として適切でないのはどれか。

- 1. 全身麻酔下でスケーリングを行う。
- 2. 歯の表面を研磨する。
- 3. 歯周ポケットの洗浄を行う。
- 4. コルチコステロイドの局所投与を行う。
- 5. 抗生物質の全身投与を行う。



**課題15** 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

牛がチアノーゼ、呼吸困難および可視粘膜の浮腫を起こして急死した。〔図 15〕はこの牛から採取した血液を用いて行ったある検査の結果である。

別冊 D

図 15

**問29** 行った検査として最も適当なのはどれか。

1. パールテスト
2. アスコリテスト
3. ツベルクリン検査
4. フェージテスト
5. ヨーニン反応

**問30** この症例の病原体が豚に感染した場合の病態として最も適当なのはどれか。

1. 咽喉部の浮腫性腫脹
2. 鼻甲介の形成不全
3. 精子産生障害
4. 皮膚の赤紫色斑点
5. 強直性痙攣

**課題16** 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

犬、雑種、去勢雄、7歳齢。2ヵ月前から下痢が徐々にひどくなり、食欲不振と体重減少が顕著になってきたとの主訴で来院。下痢は泥状便が1日に数回認められるとのことで、ボディ・コンディション・スコア（BCS）は2/5であった。糞便検査では異常は認められなかった。血液検査ではカリウム値 2.9 mEq/l、アルブミン値 2.2 g/dl であった。〔図 16 - A〕は下行結腸の超音波像であり、壁の肥厚が認められた。〔図 16 - B〕は大腸壁の細針吸引塗抹像（ギムザ染色）である。

別冊 D  
図 16 - A, B

**問31** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 膵外分泌不全
2. 炎症性腸疾患（IBD）
3. クロストリジウム性大腸炎
4. 大腸腺癌
5. リンパ腫

**問32** この症例のより詳細な診断と予後予想のために最も有用な対応はどれか。

1. 注腸バリウム検査
2. 細針吸引材料を用いたリンパ球クローン性解析遺伝子検査
3. 糞便細菌培養検査
4. シクロスポリンの試験的投与
5. 消化酵素製剤の試験的投与

課題17 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。

鶏肉が原因食品として疑われる食中毒が発生した。〔図 17 - A, B〕はこの原因食品から同一培地上に分離された 2 つの異なる菌株を示している。

別冊 D  
図 17 - A, B

問33 〔図 17 - A, B〕で使用した培地とその判定内容の組合せとして正しいのはどれか。

培地	判定内容
1. DHL	硫化水素産生
2. テトラチオネート	ガス産生
3. TCBS	インドール反応
4. ラパポート	糖分解
5. TSI	リジン脱炭酸

問34 分離された菌の性状として正しいのはどれか。

1. A は乳糖分解性である。
2. B は乳糖分解性である。
3. A は白糖分解性である。
4. A は白糖非分解性である。
5. B は白糖非分解性である。

**課題18** 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

猫、雑種、避妊雌、1歳齢。1ヵ月前に鼻炎症状を呈したため、抗菌薬の経口投与を開始した。その後、鼻炎症状は徐々に改善したものの、2週間前から食欲はあり食べたがるが、食べるとすぐに戻してしまい、体重はやや減少しているとのことであった。鼻炎症状も再び悪化傾向を示したため、来院。身体検査では黄緑色鼻汁以外に明らかな異常は認められなかった。胸部単純X線検査では明らかな異常が認められなかったため、バリウム造影検査を行った。〔図18〕はバリウム投与30秒後の胸部X線側方像である。

別冊 D

図 18

**問35** この造影像の評価として適当なのはどれか（食道裂孔ヘルニアは否定されている）。

- a バリウムの胃到達時間が短縮している。
- b 食道通過時間の遅延がある。
- c 頸部食道の狭窄が疑われる。
- d 胸部食道の造影充填欠損がある。
- e びまん性食道拡張がある。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**問36** 次に行うべき対応として最も適当なのはどれか。

- 1. 食道の腫瘍病変検出を想定した超音波検査
- 2. バルーン拡張術の適応を考慮した食道内視鏡検査
- 3. 血管輪奇形の可能性を考慮した試験的開胸術
- 4. 食道機能が改善するまでの絶食の指示
- 5. 重症筋無力症の診断のためのテンシロンテスト

課題19 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。

猫、日本猫、雄、1歳齢。昨晚、車にはねられたとの主訴で来院。元気はあり意識レベルも正常であったが、左後肢大腿部に異常可動性があり、顕著な腫脹が認められた。

別冊 D  
図 19 - A, B

問37 次に確認・検査すべき項目として適切でないのはどれか。

1. 心拍数、呼吸数、体温
2. 胸腹部の X 線検査
3. 排尿の有無
4. 腹部超音波検査
5. 左股関節および膝関節の関節可動域

問38 X 線検査で大腿骨に〔図 19 - A, B〕に示す骨折が認められた。固定法として最も適切なのはどれか。

1. エーマー吊り包帯法
2. 中和プレート固定法
3. 架橋プレート固定法
4. 髓内ピン固定法単独
5. テンションバンドワイヤー法

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

〔図 20〕は BSE の母子感染の可能性を調べるために、BSE 患畜から生まれた子牛 301 頭と健康牛から生まれた子牛 301 頭を 8 年間追跡調査した結果である。

別冊 D

図 20

問39 この研究方法はどれか。

1. コホート研究
2. 症例対照研究
3. 横断研究
4. 生態学的研究
5. 介入研究

問40 この研究において母子感染の可能性の度合いを示す相対リスクの値はどれか。

1.  $0.096 \doteq (42/301) - (13/301)$
2.  $1.055 \doteq [(42/301) - (13/301)] \div [(42 + 13) / (301 + 301)]$
3.  $2.231 \doteq [(42/301) - (13/301)] \div (13/301)$
4.  $3.231 \doteq (42/301) \div (13/301)$
5.  $3.593 \doteq (42/259) \div (13/288)$

課題21 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

犬、シーザー、避妊雌、12 歳齢。運動不耐性および発咳を主訴に来院。過去に肺水腫を発症し、入院治療歴を有していた。体温 38.4℃、心拍数 184 回／分、呼吸数 40 回／分であり、身体検査では左心尖部を最強点とする全収縮期雑音を聴取した。〔図 21 - A〕は胸部 X 線側方像、〔図 21 - B〕は心エコー図検査右傍胸骨長軸断面像、〔図 21 - C〕は同短軸断面像である。

別冊 D  
図 21 - A, B, C

問41 最も疑われる疾患はどれか。

1. 肥大型心筋症
2. 犬糸状虫症
3. 僧房弁閉鎖不全症
4. 三尖弁異形成
5. 肺動脈狭窄症

問42 この症例に対する治療目標や対策として適切でないのはどれか。

1. 前負荷の軽減
2. 後負荷の軽減
3. 心拍数上昇の抑制
4. 左房圧上昇の抑制
5. 新たな犬糸状虫感染の予防

課題22 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

犬、雑種、雄、7歳齢。腹部皮下の直径約2 cmの腫瘍を主訴に来院。〔図 22〕は腫瘍の細針吸引細胞診像（ギムザ染色）である。ある腫瘍と診断し、翌日腫瘍の切除のために毛刈りをしたところ針穿刺部位に腫脹と紫斑が認められた。

別冊 D  
図 22

問43 針穿刺部位の腫脹と紫斑の原因物質として最も疑われるのはどれか。

- a セロトニン
- b ロイコトリエン
- c ブラジキニン
- d ヘパリン
- e ヒスタミン

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問44 この症例に対する外科的切除と予後予測に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 切除時には外側方向に十分なマージンを確保することが重要である。
2. 切除時の深部マージンの確保には下層筋膜1枚を含める。
3. 摘出組織の組織学的グレード評価は予後の予想に有用である。
4. 切除組織の辺縁に腫瘍細胞が認められた場合には、放射線療法や化学療法を追加することが勧められる。
5. リンパ節転移の有無は予後には関係しない。



課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

〔図 23〕は沖縄県波照間の大気における二酸化炭素の測定結果である。

別冊 D

図 23

問45 (ア)と(イ)で示す年間変動を引き起こす原因として最も適切なのはどれか。

- a 植物代謝の変化
- b 渡り鳥飛来による生態系の変化
- c 気圧の変化
- d 偏西風の変化
- e 海水温の変化

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問46 (ウ)で示す CO<sub>2</sub> の増加が引き起こす現象と関連性が最も高い事象はどれか。

- a 湖沼水の酸性化
- b 海洋生物の大量死
- c 感染症の流行域の変化
- d 海面上昇
- e 皮膚がんの増加

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題24** 次の文を読み、問47、問48に答えよ。

犬、ヨークシャー・テリア、雄、5歳齢。1ヵ月前からの腹部の膨満を主訴に来院。〔図24-A〕は血液検査結果、〔図24-B〕は腹部X線側方像、〔図24-C〕は内視鏡検査で得られた十二指腸の病理組織像(HE染色)である。

別冊 D  
図 24 - A, B, C

**問47** この症例で最も疑われる疾患の特徴として適当なのはどれか。

1. リンパ球減少症が認められる。
2. 血清総胆汁酸が高値を示す。
3. 血清トリプシン様免疫活性が高値を示す。
4. 腹水の性状は滲出液である。
5. 尿タンパク／尿クレアチニン比が高値を示す。

**問48** この症例に対する治療として最も適当なのはどれか。

- a プレドニゾロンの投与
- b 低脂肪食の給与
- c アモキシシリンの投与
- d 消化酵素剤の投与
- e アンギオテンシン変換酵素阻害薬の投与

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題25** 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ。

犬、マルチーズ、5ヵ月齢、4.2 kg。今朝、机から落下し、その後から右前肢を挙上しているとの主訴で来院。〔図 25 - A, B〕は前肢の X 線像（A：前後像、B：右前肢側方像）である。

別冊 D  
図 25 - A, B

**問49** 画像診断として適切なのはどれか。

1. 肘異形成
2. 手根関節脱臼
3. 手根骨骨折
4. 中手骨骨折
5. 指骨骨折

**問50** この症例に対する外科的治療法として適切なのはどれか。

- a 髄内ピン固定
- b 経関節ピン固定
- c インターロッキングネイル固定
- d テンションバンド固定
- e 外固定

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題26 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

〔図 26〕は腸管狭窄を起こした牛の円盤結腸である。

別冊 D 図 26
--------------

問51 最も疑われる疾患はどれか。

1. 脂肪壊死症
2. 肥満牛症候群
3. 黄色脂肪症
4. ケトーシス
5. 腸重積

問52 予防法として適切でないのはどれか。

1. 濃厚飼料の制限
2. 植物油脂の給与
3. ビタミン A の給与
4. ビタミン E の給与
5. ハトムギの給与

課題27 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

犬、シェットランド・シープドッグ、避妊雌、8 歳齢。それまでは元気だったが 2 時間前から急に呼吸が苦しそうになり、元気もなくなったとの主訴で来院。〔図 27 - A〕は胸部 X 線腹背像、〔図 27 - B〕は胸部造影 CT 横断像である。〔図 27 - C〕はこれらの所見から外科的処置が必要と判断して手術を行った際の肉眼像である。

別冊 D

図 27 - A, B, C

問53 〔図 27 - B〕において肺内に粒状のガス像が多数認められた。これが生じた理由として最も可能性が高いのはどれか。

1. CT 撮影前に行った胸腔穿刺の際に誤って肺に空気を注入した。
2. もともと肺気腫が存在した。
3. 細菌によってガスが産生された。
4. 気管の裂傷が生じた。
5. 気管支を中心に肺が捻転し空気が捕捉された。

問54 本疾患に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 好発犬種が存在する。
2. 通常、静脈は閉鎖されるが動脈は開存しているため、肺葉に強いうっ血が生じる。
3. 乳び胸を合併することがある。
4. CT 検査や気管支鏡検査が診断に有用である。
5. 外科的処置はできる限り罹患肺を温存するように行う。

課題28 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

猫、雑種、雌、推定 2～3 歳齢。元気や食欲はあるが呼吸促迫があり、激しく動くと口を開けて呼吸するとの主訴で来院。〔図 28 - A, B〕は胸部 X 線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D 図 28 - A, B
---------------------

問55 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 胸水貯留
2. 横隔膜ヘルニア
3. 気胸
4. 肺炎
5. 腹膜心膜横隔膜ヘルニア

問56 この症例の原因として最も可能性が高いのはどれか。

1. 誤嚥
2. 細菌感染
3. 先天異常
4. 外傷
5. 肺のブラ破裂

課題29 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

牛、ジャージー種、雌、3歳齢。フリーストール飼養牛。初産1ヵ月後に急に後肢の跛行を示したとの主訴で診察。〔図 29〕は疼痛が強い部位を削った蹄の肉眼像である。

別冊 D

図 29

問57 最も疑われる疾患はどれか。

1. 白帯裂（白線裂）
2. 蹄底潰瘍
3. 趾間フレグモーネ
4. 趾皮膚炎
5. 趾間皮膚炎

問58 本疾患の治療と予防に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 病巣を覆う角質を除去し、排膿・洗浄する。
2. 健常側の蹄に蹄底ブロックを装着する。
3. 潜在性蹄葉炎の予防に努める。
4. 定期的に削蹄を行う。
5. 牛床の湿潤環境を保つ。

課題30 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

犬、ヨークシャーテリア、雄、8ヵ月齢。右後肢の挙上を主訴に来院。〔図 30〕は X 線腹背像である。

別冊 D

図 30

問59 右後肢の画像所見として最も適切なのはどれか。

1. 股関節離断性骨軟骨症
2. 大腿骨頭の斑状骨融解
3. 大腿骨頭骨端軟骨の骨折
4. 膝関節骨関節症
5. 膝蓋骨外方脱臼

問60 この症例で疑われる疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 発症に年齢特性はない。
- b 大部分の症例は関節内の細菌感染が原因で生じる。
- c 病変部には虚血性壊死が生じている。
- d 大腿骨頭骨頸部切除術が推奨される。
- e 早期に大腿骨頭を固定できれば予後は良好である。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e









